



自然観察

No.144

2024.10月

目次

- ウォッチングレポート…………… 2
- お知らせ 「環境ひろば札幌」 …… 11
- シリーズ「一人一 観察協議会の歩みを振り返って」 …… 12
- 観察部からのお願い「来年度の観察会企画募集について」 … 13
- さあー 身近な自然を観察しましょう…………… 14
- 編集後記・連絡先 …… 16



倶知安町 鏡沼

ウオッチングレポート



札幌市「旭山記念公園」野鳥観察会 2024/5/18
野鳥の鳴き声を聞いてみよう

札幌市 皆川 昌人

野鳥の鳴き声先週よりも少なかったですが、それなりに聞けたのと、お目当てのキビタキ（クマガラの鳴きまね！）を聞くことができたのはよかったです。反省点としては、屋外で鳴き声を出す道具を使うのは気が引けるのでやらなかったですが、それをして声を予め聞いてもらうのも良かったかと。もしくは集合場所を森の家にして出発前に聞いてもらうのも良かったかと。

鳥の姿はあまり見られなかったですが、もう少し粘って姿を見られるようにする必要はあるかもしれない。しかし、やはり物理的に無理ということもあるので無理はしないでおいてもいいのか。歩くペースが速すぎたかもしれないが、それは最初に皆さんの前で断っておいてもよかったと、これも反省点。

来年はもう一週早くしてもよいかと思うが、できれば旭山の春のイベントとして定着させていければと思う。皆さん、喜んでもらえたようで何よりではありました。



千歳市「春の紋別岳山麓」観察会 2024/5/25
紋別岳山麓の植物や鳥

恵庭市 林 祐子

気温も低くパツとしない天気となった当日。今年はどれくらいの人に来てくれるだろうかと不安に思ったが、たくさんの方に参加していただき無事終わった。今年の紋別岳は、アオダモが花盛りで、なかなか見ない花に興味が集まった。

他にも笹の花が少し開き初めだったことや、オトシブミの芸術的な葉の巻き方や、卵の小ささに歓声が上がっていた。お昼に近づくとつれ天気も良くなり、山頂に向かう人や、湖畔も見たいので先に下山する人など（もちろん最後まで一緒に下山する人も）、思い思いに春の紋別岳を楽しむことができ良かったのではないかと思います。個人的には自身の力不足を痛感した観察会となったが、参加者の助けに支えられ、何とか終えられた。

石狩市「石狩海岸・志美三線」観察会 2024/5/25
海岸砂丘の植物群落や日本最大級の
カシワの天然生海岸林等の観察

石狩市 石岡 真子

石狩海岸は、生物多様性に富んだ海辺の自然環境が大規模に残る全国的にも貴重な自然海岸です。

延長 25 km に及ぶ海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大級のカシワ (①) を主体とする天然生海岸林 (②) (幅約 500m) の帯状構造を石狩湾に沿って完全に備えていることは奇跡的ともいわれ、きわめて価値は高いのです。

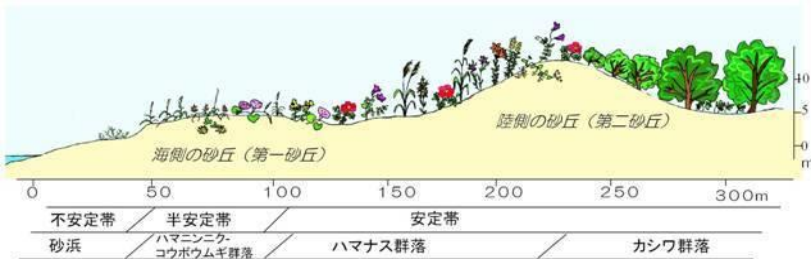


海岸林以外の海域、海岸草原、海岸林背後の野原などに、風力発電施設、太陽光パネル、新幹線トンネル掘削残土などが散見され、自然景観の様変わりのみならず生物多

① カシワの葉裏(花殻(み)と昨年の実の殻) ② カシワを主体とする天然生海岸林

様性の根幹を揺るがす事態になっている気がしています。

志美 3 線は、石狩湾新港工業地域の北東側に位置する市道です。



③ 石狩段丘の断面植生変化

地名の志美（しび）はアイヌ語の「シピシピウシ」（トクサ（木賊）のいっぱい生えている所）に由来します。

観察会は、石狩海岸の植生の帯状構造を横断的（③）に進み、海岸林の中の砂堤列のくぼ地に雪解け水が溜まってできる「融雪プール」（④）を確認しました。キタホウネンエビ（日本の石狩海岸林と青森県の一部でしか確認されていない淡水のエビ）が生息しています。雪融け水がたまる時期（4～5月ごろ）だけ姿を現し、他の時期は卵で土の中で過ごします。



⑤ 第2砂丘から展望する

最高点の第2砂丘（標高10m）に到達し、浜辺の景観とともに石狩湾新港のLNG火力発電所、LNGタンク群、石狩湾洋上風力発電所などの風力発電施設が見えます（⑤）。

海岸草原の海浜植物群落の観察（⑥）の後、砂浜から海へ出ました。

観察した海岸林の植物：カシワ、ミズナラ、イタヤカエデ、キンギンボク、ハマナス、マユミ、コマユミ、トクサ、サワフタギ（⑦）、クゲヌマラン、ヒメイズイなど

観察した海浜植物：コウボウムギ、ハマハタザオ、ハマニガナ、テンキグサ（⑧）など

観察した鳥：ウグイス、ヒバリ、ムクドリ、トビ、ホオアカ、ノビタキなど

石狩海岸は、北海道自然環境保全指針で定める「すぐれた自然地域」に指定されています。海岸林については「生物群集保護林」（石狩浜海岸林）（林野庁 北海道森林管理局）が設定されることにな

っているのですが、海岸林だけでなく海岸草原についてもセットで保護してほしいと思っています。



⑦ サワフタギ



④ 融雪プール



⑥ 海浜植物群落の観察



⑧ テンキグサ

札幌市「野幌森林公園」観察会 2024/6/15
春の野幌森林公園を歩く

北広島市 三澤 英一

前日までの雨のため多少ぬかるみましたが、ユズリハコース約3 kmを2時間半かけて歩きました。参加者は小学生の子供2人を含む15名。指導員は5名だったので、小学生親子1組（4名）と大人11名の2グループに分けて散策しました。小学生は興味の視点も異なるので、指導員1名がついて短いコースを往復して実施しました。一般参加では大阪から旅行ついでに訪れたというご夫婦や苫小牧から来たというご夫婦もいて、ここでの観察会の関心の高さを感じました。リピーターの方も何名かいて、個人的に森林公園を散策しているとかで、ここにはあの植物が、あそこにはこの植物がと逆に教えられるほどコースに精通していて、チョウセンゴミシがある場所も教えてくれました。長年ここで観察会をしています、初めての発見だったので感動しました。観察会では、共に学ぶ姿勢を大切にしたいと思います。

札幌市「新川・オタネ浜」自然観察会 2024/6/22
歴史の縮図、新川河口の散策と
奇跡の海岸オタネ浜の自然観察

札幌市 村元 健治



シロバナシナガワハギ

一般参加者4人、指導員2人の計6人でスタート。曇りから晴れに変わり暑いくらい。海まで続く白く乾いた砂利道の両側の自然観察から始める。ここには、他の道と同様、イタドリが繁茂していたが、それらが無いところには外来植物が目立った。タンポポモドキ(ブタナ)から始まって、シナガワハギ、レッドクローバ、ホワイトクローバ、ムラサキウマゴヤシ、ヘラオオバコ、フランスギク、オニハマダイコンなどの植物をはじめ、ニセアカシア、イタチハギなどの樹木も紹介された。

これらの中で、シナガワハギ、ムラサキウマゴヤシなどは、詰め草として利用されていた

と紹介されると興味深く参加者たちは聞き入っていた。

またこれら外来植物に関わって、オオイタドリがイギリス等の国々において日本から持ち込まれて、その繁殖力の旺盛さから相当はびこってしまい、この植物があると不動産価値が下がるという問題をも引き起こしている



浜の奇跡

ことも伝えられた。また木の葉の黄ばんだものを利用して道内に棲息するコウモリがいると聞かされて皆一同、ビックリ。

新川に沿って河口に向かったので、指導員から同川の建設経過とか、河口にあったオタルナイ場所の運上屋とか、海岸線と柏の純林の中を通る銭函から石狩まで続く道がそれぞれあったこと、また明治半ばに山口地区を襲ったトノサマバッタの卵とか死骸を集めて塚を作ったバッタ塚(札幌市の文化財)などの新川河口にまつわる様々な歴史も伝えられた。



ハマボウフウ

オタネ浜については、海側から陸に向かって渚、砂浜、砂丘、後背池、後背林というように帯状にゾーンが分けられ、それらに照応した様々な生き物、植生があるという意味で非常に、今日、貴重な自然海岸であることが紹介された。

特にこれらのゾーンの中でメインの砂丘地帯では、ハマニンニク、ハマエンドウ、ハマナス、ハマヒルガ

オなどのハマという名が付いた植物が、地中深く根を張って砂の飛散を防いでいる状況を実際に観察した。

またこれら海浜植物と言われる植物が、近年の風車建設に関わって、国道から一般車の乗り入れ禁止が続けられてきた結果、バギー車等による踏みつけ等が無くなったため、かなり復活していることを確認した。

雨にも当たらず、少数精鋭の人数であったが、参加者、それなりに得るものもあったようで、また次回にも参加したいという人もいた。



ハマナス

小樽市 「蘭島海岸と忍路」 観察会 2024/7/7
蘭島海岸の海浜植物と忍路の海底火山の噴火の観察

小樽市 吉田 陽子

一般参加者4名 指導員6名 午後から雨の予報。午前8時30分 JR 蘭島駅を出発。川沿いの護岸のキリは今年花をつけた形跡がなく樹勢が弱い様で心配です。毎年逢うのでお馴染みさんの様な感覚になります。浜に面した道に出ると良い香りが漂います。ハマナスは午前中の香が一番強いそうです。鮮やかな紅色のハマナスと白いハマナスが混在しているのを見て参加者から『赤い花と白い花、香りが違うのかな?』の声が。自然に対する不思議や興味を大切にしたい!しかし白いハマナスが咲いているのは某企業の海辺の保養所敷地内。許可無しには入れません。来年に備えて観察可能な白いハマナスの花、探しておこう。

いつの間にか青空が広がり、砂浜で暖められた空気の熱さと海の匂いを感じます。テトラポットの上では、羽を広げて乾かしているウミウの横にカモメが休んでいます。コウボウシバの雄花と雌花。ハマヒルガオ、コウボウムギ、ハマニンニク、オカヒジキ、オニハマダイコンは実をつけています。下見の時に見つけたハマツメクサの小さな白い花は咲き終わっていました。

西の余市方向の空から近づいてくる雲に追いかけられるように進みます。海に面した崖の上空をトビが旋回しています。先程の晴れ間で暖められた空気が上昇し、冷えた空気が下降。気流の動きで涼しい風を感じている事を指導員が解説します。観音坂の入り口に着くと、上空の雲と樹木の陰になり浜の直射日光とは一転、日射しが弱まりました。

参加者が楽しみにしている坂の途中の苺畑。残念ながら農家の方が不在で今年はイチゴ狩りは無し。みずみずしく真っ赤に実る苺を横目に通過。小鹿菊のバニラピーンズに似た匂い。エゾニワトコはアイヌ民族が魔除けに用いたという匂い。五感を駆使して観察します。林の中から小樽市の鳥、アオバトの声が聴こえてきます。山道ではヤマグワの実、コクワ、ミツバアケビ、スモモ(今年は豊作の様子)、シャク蛾の仲間、シジミ蝶の仲間、セリ科植物の葉にキアゲハの終齢幼虫。隣の葉は硬い葉脈しか残っておらず、旺盛な食欲に一同感心。

山道を下ると神社の例大祭のお囃子が聴こえてきました。忍路神社は鯨漁で栄えたオショロ場所時代の遺構です。港の岩壁では1000万年～500万年前の海底火山の噴火で出来た枕状溶岩の断面や、火山性ガスが出た時の穴の空いた安山岩を観察。今見上げている場所が大昔は海の底だった。海底火山噴火の中心地だった忍路の地形の成り立ちには壮大なドラマがありました。初夏の蘭島。忍路は、人も植物も昆虫も鳥も自分の居場所で懸命に命をつないでいました。



蘭島駅前通り



忍路 枕状溶岩



忍路

最後に幕末の探検家、松浦武四郎が忍路で詠んだ和歌を御紹介します。『見あぐれば すもも からもも(杏) 桃桜 わかぬばかりに 咲き満ちにけり』 武四郎が深く感動した蘭島忍路の風景を、皆さんどうぞ見に来て下さい。

札幌市「鴨々川・豊平川・精進川」観察会 2024/7/7
川から気候変動について考えよう

札幌市 鈴木ユカリ

7月7日の川の日に合わせて川に特化した観察会を開催しました。

特に近年気候変動という言葉を目にするようになり、気候変動が進んだ将来、北海道はどうか、どうするのかを研究されている「北海道立総合研究機構エネルギー環境・地質研究所」から鈴木啓明氏を講師としてお招きし、以下の感想をいただきました。

「私は、北海道内への気候変動の影響を調べている研究者です。この日は、鈴木ユカリさんからお声がけいただき、観察会の講師を務めました。気候変動による河川への影響について考えるため、いくつかのクイズを出し、河川の水温を測りながら、全15名で鴨々川・豊平川・精進川を巡りました。

クイズ1問目は、鴨々川でどのような気候変動影響が生じるかを出题し、(1)大雨などによる氾濫などの増加、(2)水温上昇による水域生態系への影響、(3)大雨の増加による水質悪化、のすべてが起こりうることを紹介しました。これらは全道の多くの河川で想定される影響です。なお、鴨々川は豊平川から人工的に引水しているため流量を調節できるため、(1)の影響は限定的となります。

2問目のクイズでは、豊平川について、2040年頃(気温の2度上昇時)に大雨の増加で流域の浸水家屋数が1.5倍、想定被害額が約2.7倍に増加すると予測する国土交通省資料を示し、洪水リスクの増加が差し迫った課題であることを紹介しました。

3問目は、精進川の水温がほかの河川より高いか低いかを考えました。実は1週間前の下見では、精進川の水温は他の2河川より、1度程低い値でした。

しかし当日測ってみると精進川の水温は他の2河川とほぼ同じ(0.3高い)でした。下見の日は日差しが強い日で、河畔林に覆われる場所が多い精進川では、ほかの河川に比べ水温の上昇が抑えられたのに対し、当日は曇りで日差しが弱く、違いが現れなかったものと考えられました。このように、気象条件によって水温が変化することを確認できました。また、将来的には気温や地下水温の上昇に伴って河川水温も上昇していくことが予測されていますが、その程度は上流の流域環境や保全・管理の状況によっても異なることを紹介しました。

観察会の最後に、気候変動への配慮がされた製品やサービスの選択、省エネ行動、より深刻な暑熱や洪水への備えなど、私たちが日常生活でできる気候変動への対策を紹介しました。

この観察会が、身近な河川の環境と気候変動との関わりに気づき、理解と関心を高めるきっかけになれば幸いです。

北海道立総合研究機構 鈴木 啓明

今回の観察会では、階段の上り下りがあり、体力的にも大変だったと思います。参加された皆様、お疲れ様でした。



札幌市「菅原農園」観察会 2024/7/21
田んぼで生き物を探そう

札幌市 鈴木ユカリ

この日は曇りの予報でしたが日差しが強く、連日の暑さのため熱中症対策を行って観察会を開催しました。

挨拶、危険箇所の説明を行ってから、今年の田んぼはいつもと違うことを伝え、一度枯渇状態になってから水が入ってまだ2週間程度で、生き物が生息しているのかの問いかけにより、探求心にも繋がるように心がけをしました。

採取する前に講師からこの田んぼに生息している生き物の写真を披露していただき、名前の書いてあるカードと合わせるというゲームを行いました。

高学年の参加者は全問正解でした。その後田んぼに入り生き物採取。大人も一緒に探しますが熱中症も心配なので、「水分補給してください」と声をかけると「田んぼの四面全部やってから」と子供の声。生き物に親しんでいる瞬間がとてもうれしく思いました。

稲の生育していない所では、田んぼでは珍しい追い込みを行い、結果は残念でしたが観察会の最後に感想を聞いたところ「楽しかった。」と話していました。



小樽市 「長橋なえぼ公園」観察会（夏）2024/8/25
夏のなえぼ公園内の植物

小樽市 松井 典彦

天気もまずまずの日曜日で、11名の参加者（市外から5名）と4名の指導員の総勢15名の観察会となりました。

夏のこの時期の観察会は初めてで、10月に行っている例年の観察会とは違った多くの植物や昆虫が観察できました。自然館の隣のブナの幹周をメジャーで測ってみると3m04cmありました。道内で一

番古い森林公園と言われるだけあり、この植物館のシンボルになっています。昆虫に詳しい参加者の方が採取したトンボや蝶を観察させてくれて、この時期は積極的な観察もあるなど感じました。

オオバボダイジュの木の実の不思議、ヤブタバコよりもコヤブタバコの方が、名前とは違い花が大きいことなども印象に残りました。サイハイランの新芽、サルメンエビネの調査の話、ウィンナーソーセージのようなツチアケビの赤い実を観察することができました。また秋の観察会や来年の夏の観察会が楽しみです！



ツチアケビの実



カツラの実



ブナの木



ハバチの幼虫

恵庭市「秋のルルマップ自然公園ふれらんど」観察会 2024/9/7
ルルマップ川散策路と周辺農地の植物・鳥など

恵庭市 林 祐子

初めて開催したルルマップでの観察会。はたして参加者はいるのだろうかとドキドキだったが、12名のかたに来ていただいた。中には初めての場所だから、行った事が無い場所だからという理由で参加を決めてくださった方もいた。

観察会は天気も良く条件は最高。秋ならではの色々な実の観察が中心となった。ルルマップは全体的には湿り気が好きな植物が多い。しかし所々にある小さな森が変化をもたらす。そこが面白いと思い、観察会を開催したのだが、参加してくれた方々もその変化を楽しんでくれた様子だった。

キノコ・オニグルミ・クリ・コクワなど身近な食料となった植物から、ニワウルシ・ミズキ・ミズナラなどの実を観察し、また春の様子に興味を示してくれた方もいた。私自身もまた春にこの場所での観察会を行うことが、楽しみに思った観察会だった。

札幌市「野幌森林公園」観察会 2024/9/28
秋の野幌森林公園を歩く

北広島市 三澤 英一

風ひとつない穏やかな秋晴れの中、野幌森林公園のユズリハコース約3kmを2時間かけて歩きました。参加者は7名と少なかったものの、多くが春の観察会のリピーターで植物に詳しい方ばかりでお互いに教えあいながら散策しました。

下見の際に花を咲かせていたミズヒキやキンミズヒキ、キツリフネはすでに終わっていましたが、エゾトリカブト、サラシナショウマ、ハナタデが盛りで隣り合わせに群生していたミゾソバとアキノウナギツカミの違いを確認したりもしました。路端で参加者が数輪のアケボノソウを発見！下見の際には見れなかったもので、皆さんスマホなどで写真を撮っていました。しかし、昨年秋には見られたツチアケビが消えていました。希少種はそっと見守りたいものです。

『環境広場さっぽろ 2024』で本協議会パンフ・チラシを配布

これからの持続的開発とか気候変動等について市民に判りやすく理解してもらう標記イベントが8月24・25日の両日、札幌市豊平区にある「大和ハウスプレミストドーム」(旧札幌ドーム)で開かれました。主催は札幌市で、今年で27回目の開催となりました。

上記の開発、気候問題をはじめとする当面する課題についての判りやすいパネルが種々展示されました。

また自然並びに開発等に関わっている団体・企業の紹介ブースも合わせて出展されましたが、本協議会も加盟参画している環境道民会議からのお誘いを受けてパンフとチラシの配布をそれぞれ行いました。

パンフは、本年作成した入会案内パンフ200部を、またチラシは同会議事務局で作成して頂いたものをそれぞれ配布いたしました。なお、チラシについては右記の内容のものを作成頂きましたので参考まで掲載させていただきます。

環境道民会議 参加団体紹介

【北海道自然観察協議会】

- 主な活動内容
 - ①自然観察会の開催
 - ②自然観察指導員の認定への支援協力
 - ③会員の資質向上を図るための研究会等の開催 など
- お知らせ
 - 現在、当協議会では新たな会員を募集しています。どなたでも入会可能となっておりますので、自然観察や環境問題に興味のある方は是非ご入会ください。(詳しくはパンフレットをご覧ください。)

○活動の様子

精進川(札幌市) 平岡公園(札幌市) 北方自然教育園(札幌市)

忍路海岸(小樽市) 余市川(余市町)

シリーズ 「一人」 観察協議会の歩みを振り返って

小樽市 後藤 言行 さん 前編

【プロローグ】

編集部では記事内容の見直しの一つとして、観察会や動植物の話題だけではなく「人」に着目した記事を書いてみてはどうかと検討をしていました。実際に人に会い取材して記事にするというのはなかなか難しさを感じていましたが何事もやってみて判断しましょうと言うことでスタートしました。会員の皆様からもいろいろご意見下さい。

取材は後藤ご夫妻にお聞きしていて、一部に後藤美智子さんの会話も加えています。

【父親と「原稿」命名の秘話】

松井：早速なんですけど、先生のお名前はなんとお読みしたらいいのでしょうか？

後藤先生：正式というか本当は「のぶゆき」というのだけれど、「言」はのぶとは読まない。皆さん「げんこう」と呼びやすく覚えやすいようなので……。いちいち訂正も面倒なので……。父親は「言は述べると言う意味につながっているから「のぶ」と読んでも間違いではない」と言う。父親は学者だから……。

松井：お父さんはどのような研究をされていたのですか。

後藤先生：考古学の研究をしていました。元江別にある別名「後藤遺跡」というのが父親の発見した遺跡です。

私は、小中学校は長野県で育ち、その後北海道に来て北広島で過ごしました。高校は月寒高校卒業です。

【大学から教員の世界へ】

松井：自然に興味をもたれた生物に興味を持たれた切掛けはなんですか。

後藤先生：父親が古いもの死んでいるものだったので、私は生きているもの生き物に興味がありました。大学は少し時間をかけて（笑）北海道大学に入学して、生物学教室に入りました。

美智子さん：この方が何だかだで2年遅れて入ってきて、私年齢は一つ下なんですけど1年先輩で……。大学の時に知り合って今に至っています。

後藤先生：大学院に残ろうかとも思ったのですが、大学院の雰囲気あまり良くなくて、高校の先生にでもなろうかと高校の理科を受けました。北海道だけではなく青森から南へ下がっていろいろ受けました。採用されたのは僻地です。福島県の尾瀬の入り口の近くのところ。この先に人は住んでいないカモシカが出るってところで、南会津高校。でも、子どもたちが純朴で教員としては楽しい7年間でした。

美智子さん：私も一緒だったんですが、私は一人娘で両親も年を取ってくると何かと心配で北海道に戻りたいなと思っていました。

後藤先生：下の子が生まれるという状況もあり、交換人事で上手く北海道に入ることができました。赴任先は北方領土が見える高校で、なかなか大変な元気のいい子どもたちがいる学校でした。

江別古墳群は、昭和6年後藤寿一氏により発見された遺跡です。後藤氏により16基が調査され、昭和55年に実施した再調査で21基の古墳を改めて確認しました。（江別市郷土資料館）



美智子さん：私も少しロシア語を勉強していて、地元の人に「拿捕されたときになんて言えばいいか教えて欲しい」なんて頼まれたりして・・・。

後藤先生：そこに10年、二桁の年数そこにいたということは評価に値すると思いますよ。

松井：分ります。私も教員だったので想像が付きます。すごいですよ。

後藤先生：実は1年間病気で休職しまして、1年職場復帰しましたが、通院が必要だという状況でなんとか妻の実家のある小樽に異動することができました。



【高校教師としての自然観察】



02.5.3 観察会

後藤先生：小樽商業高校に赴任して、女子生徒が多い高校で真面目な子が多い。勉強も真面目に取り組む子が多くて楽しかった。授業で「自然観察」を取り入れることにしました。

松井：授業で自然観察と言っても1時間にどれだけ移動できるかを考えると、なかなか難しいと思うのですが、月に2回とかですか？

後藤先生：子どもたちにフィールドノートを持たせて、春から秋まで基本は自然観察で学校から外に出る。子どもたちははじめどうノートに書いたらいいかも分らない。説明をすべて書こうとする子もいる。でも、結果的に「大学受験」というものが大きな比重を持たない子どもたちは徐々に自然と接することを楽しむことができるようになったんです。

02.4.28 下見会

この続きは次号に掲載することとします。お楽しみに。

観察部からのお願い

『来年度観察会企画募集について』

今年もまた来年度の観察会企画募集の時期となりました。観察部では、全道各地の皆さんから、来年度の観察会企画を広く募集します。

については、今年度観察会予定表に準じ、「月日」・「観察地」・「テーマ」・「集合場所・時刻」・「交通機関」・「参加費」・「連絡先」等の各項目を記載し下記宛て郵送、またはメールにてお送りください。

予約や定員などを設ける場合は申込方法など詳細を合わせて記載して戴くようお願いいたします。「参加費」について、特に記載のない場合は200円としますので、ご了承ください。

また、下見日程の決まっている観察会については、下見日も併せてお知らせください。

「観察会予定表指導員用」に記載いたしますので、よろしくお願ひします。

募集期間は、**2025年1月31日**までとし、観察部会にて日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正は、**2025年2月末**まで受付します。

観察部 山形誠一 〒 064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

Mail seiichitaraxacum@gmail.com

TEL 011-551-5481 携帯 090-6267-4961





ニシキギの魅力は紅葉だけじゃない！

○世界の3大広葉樹の一つ

皆さんはニシキギについて、ご存知でしょうか。えっ!、相撲取りの錦木関なら知っているけど、後は知らないって。関取も良いのですが、今回紹介するのは、低木のニシキギという木のことなんです。

皆さんも何処かで何気なく、この木をきっと見ていると思います。とくに晩秋のこの時期になったときに、見ている人が多いと思います。

というのは、この木の最大の魅力は、ハッと息を飲むような深紅の紅葉をするところにあります。それは大変、美しいもので、何と世界の3大紅葉樹の一つすらなっているのです(注)。

この木は、ニシキギ科の2~4m程の低木の部類に入りますが、とにかく、その紅葉の美しさと言ったら、溜息が出るほどです。

この木は、山にももちろんありますが、その美しさを人々にも知ってもらいたいという配慮からか、公園などにも結構、植栽されています。

そんなわけで、私も、いつも散歩する公園脇の傍に植えられていることを知っていたので、秋の時は毎年、その紅葉を愛でてきました。

昨年もちろん愛でましたが、その時、思いもかけず、この木の知られざる興味あるところを発見したのです。

今回の話は、このことについて報告いたします。

○四角い枝

その驚きは、2つもあったのです。まず1つ目は、メインの幹から出てくる枝の形が何と四角いのです(写真1参照)。

これには、今まで全く気づいていなかったのですが、葉も落ちて枝ぶり等の全形が見えるようになったため、何となく枝を触ってみて初めて気が付いたのです。

植物も樹木も一部の例外を除いて殆どが茎とか枝が円くなっているもので、このことは常識みたいなものになっているのですが、その点、殆ど直線の四角になっているというのは、非常に珍しいと言わざるを得ません。その常識を破るものですから、これには本当にビックリしました。何度もさすって確かめましたが、やはり四角いのです。

私が知っているもう一つの四角いものは、植物のハーブ類の茎ですが、これを知った時も驚きましたが、今回は樹木でジャンルこそ異なりましたが、とにかく驚き入りました。

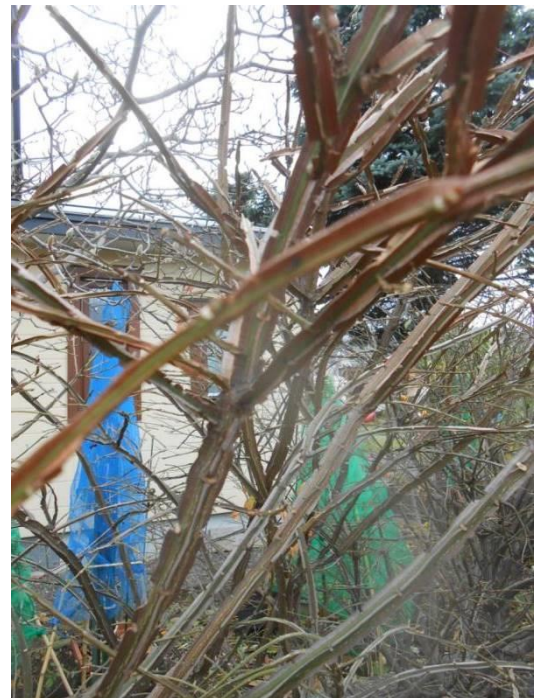


写真1 枝が四角で直線的に伸長

この驚きの木を改めて写真を撮ろうとして、後日、傍によってしげしげと枝を見たのですが、その時、目をさらに根元の方にやると、どうも枝の方とは違う形状をしていることに気づきました。そこで根元の方をよく見ると、根元から途中までの幹は、上の枝の四角とは異なって、普通の樹木と同じように円いのです。途中から枝が出る辺りから、円から四角へと変化しているのです。

このことも驚きました。私が見た木は、5~6本程でいずれも2m以下の比較的若い木だったのですが、とにかく根元の幹は円いのに対して、途中から出る枝は四角なのです。

円から四角へと変化することについて触れた解説本を探してみましたが、どうも見当たらない感じでしたが、これは若木特有のもので、成木になると普通の木と同じようになるのか、それとも老木になっても変わらないのか、よく判りません。

○枝に沿って付いている翼

実はもう一点、この木には驚かされたのですが、それは四角い枝の両側に、翼のような薄い板状のものが、十字対生状に付いているのです(写真2参照)。

枝に、このような翼みたいなものが生えている木を私はもちろん、これまで見たことも無かったので、これまた驚きました。

何のために、このようなものがあるのかさっぱり判りませんが、とにかく枝に沿って翼が付いているのです。

この翼のことはよく知られているところとみられ、例えばウィキペディアでは「若い枝では表皮を突き破ってコルク質で、節ごとに十字対生して、板状の2~4枚の翼(よく)が発達する。翼は細い枝にも低く残り、幹には翼の痕が残っていることが多い」と記載されています。

この翼を見ていると、アイヌの人達のこの木に対する思いが浮かんできます。

アイヌは、この木を弓を作るのに使う木として利用してきたようです。そのようにみると、とくに翼が付いているところを見ていると、その翼が矢の尾羽根である矢羽根のようにも見えてくるのです。(多分、弓に使ったのは、枝ではなく幹の部分と思われる。)

以上、近所で毎日、何気なく見ていたニシキギの木に、思いも寄らぬ不思議なものを見出して、この木に対する関心が益々高まってきた次第です。身近なところにあるものを、改めて振り返って見ると、日頃全く気が付かなかった興味深い、驚くようなことを意外と発見することができるものですね。皆様も、今度、この木を見かけたら、その不思議な魅力に富んだこの木をご覧になるなり、お触りなるなどして十分、確認してみてください。



写真2 枝の両側に見える翼

(注)世界の3大広葉樹とは、このニシキギの他にスズランノキ、ニッサの3樹枝なっています。

(山猿)

(編集後記)

観察会のレポートがたくさん届きました。嬉しいです。編集の作業の中で広報担当者の仲間内では、「今回特に正にレポート調の臨場感が伝わる文章があってとても良かったね。」「読んでいてまるで一緒に参加しているような感じがしてすごい！」という声が……。皆様、文学的表現やレポート調のものなど個性豊かで、編集をしていてとても楽しいです。ありがとうございます。

M氏から「写真を付けてくれてとても良くなったよ……！」と喜んでいただきました。機会があれば観察会に参加して写真を撮らせていただこうかなと思っています。今年購入したスマホをカメラの性能で選んだ成果です！



新しい企画で言行先生のおうちに伺いました。たくさんお話を聞かせていただき、先生の生い立ちや考え方をすることに繋がりました。

すごい量の写真をお借りすることになり、小樽博物館の調査活動にも参加されていたこともわかり驚きです。

9月に小樽の指導員の仲間と宿泊研修に出かけました。昭和新山のロープウェーから撮った写真です。今回は火山の研修ができました。ミマツダイヤグラムの資料を見て、改めて観察の継続の大切さを感じました。正に「継続は力なり」ですが、我が身に置き換えると甚だ怪しい状況で反省しきりの今日この頃です。 (松井)



連絡先等

保険料	郵便為替口座 02770-9-34461
観察会北海道自然観察協議会のホームページ	http://www.noc-hokkaido.org/
会計・寄付	郵便為替口座 02710-1-8768
	会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 加藤 秀史
会計	加藤 秀史 〒001-0926 札幌市北区新川6条15丁目5-10
観察会担当会計	小川 祐美 〒047-0155 小樽市望洋台3丁目13-5
	TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp
観察会報告書・資料	観察部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14
	TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichitaraxacum@gmail.com
退会・住所変更	事務局 松井 典彦 〒047-0021 小樽市入船4丁目17-19
	TEL 090-3113-3421 E-mail nykd-matsui.poteto@nifty.com
投稿・原稿	編集部 村元 健治 〒006-0852 札幌市手稲区星置2-8-7-30
	TEL/Fax 011-694-5907 E-mail cin55400@gmail.com
事故発生等緊急時	ケイティエス 担当 本間 茂
	TEL 011-873-2655
表紙写真	大表 章二 鏡沼 撮影日 2024年9月 撮影地 倶知安町鏡沼



自然観察 2024年10月15日/第144号 年3回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれます)

発行 北海道自然観察協議会

編集 北海道自然観察協議会編集部